



## 第5分科会

### 「国際結婚 33 年、「移住」について考える～私の人生プラン～」

- 担当：西上紀江子（認定 NPO 法人 IVY 理事）、澤恩嬉（東北文教大学短期大学部准教授）  
安孫子義彦（山形県国際交流協会）、栗野さとみ（山形県国際交流協会）
- 協力者：早森由香（金山町教育委員会）、三上幸（金山町在住 中国出身）、阿部シルリー（金山町在住 フィリピン出身）、五十嵐貞心（認定 NPO 法人 IVY 韓国語相談員）、小関アウグスタ秋江（AIRY 相談員 ブラジル出身）、吉川恵（認定 NPO 法人 IVY 中国語通訳）
- 分科会の目的：
  - ・1985 年、山形県朝日町で、全国に先駆けて行政主導の国際結婚が行われました。以来 33 年経つ今年は、結婚移民 1 世の方々とその町の担当者をゲストに迎え、外国出身者が、日本の地方で長く生活していくためには、どのような視点と取り組みが求められるのか、さらに、今後の人生プランについて考えます。
- 参加者人数：22 名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
報告	全国と比較した山形県内在住外国人の状況および金山町のデータを紹介する。
パネルトーク  ファシリテーター： 西上紀江子	<p><u>ゲスト自己紹介</u> 外国出身者 5 名と、金山町教育委員会 1 名の自己紹介。</p> <p><u>Q どのような形で山形に住むことになったのか？</u> ・国際結婚をして、山形に住むことになった。</p> <p><u>Q 山形の好きなところは？</u> ・山形の好きなところは、温泉があり、自然豊かなところ。 ・道路を自転車で乗れるところ。自分の国より安全なところ。</p> <p><u>Q 今後山形に住み続ける？</u> ・まだ決めていない。 ・子どもが他県に行ったので近くで暮らしたい。 ・まだまだ山形に飽きていないので、飽きるまで住むつもり。</p> <p><u>参加者からの質問</u> Q 現在自分は永住権を持っていて、子供がいるので日本に帰化をするか考えています。 <u>現在の在留資格はなんですか？ 今後山形に住み続けるにあたり、帰化しますか？</u> ・結婚してすぐ帰化した。 ・帰化は絶対しない、山形は好きだけど自分の国籍を残していく。 ・子供が大きくなって、もうそろそろ帰化してもいいかなと考えている。</p> 

	<p><u>Q 自分の国に置いてきたもの、または持ってきたものはありますか？</u>  <u>そして、どんな決意をもって山形に移住しましたか？山形に来てから苦労されたことはなんですか？</u></p> <p>A. (ファシリテーター)  質問の内容が大きすぎるので、回答はグループトークにて質問を行うこととし、パネルトークを終了。</p>
<p>グループトーク  ファシリテーター：  澤恩嬉</p>	<p>※グループ 5~6 名×5 グループ。  ※ゲストが各グループに入り、参加者はもっと話を聞きたいゲストのところへ移動。  ※各グループで司会・発表者を決める。</p> <p>【グループトーク 1】  ①グループ内で自己紹介。  ②前半の話を受けて、もっと聞きたいことをゲストに質問。</p> <p>【グループトーク 2】  今後の人生プランについて、意見交換。</p> <p>【全体共有】  (Aグループ)  ・これからの人生設計：毎日楽しく生きる。  ・大きな決断をするとき、まずやってみる。  ・諦めかけたことをまたやる。  ・深く考えすぎずに行動する。</p> <p>(Bグループ)  ・理想の人生＝異文化交流だととらえること、異文化交流で人生を豊かに  ・日本人同士でも違うところがたくさんある。共通なところに着目してそれ以外は目をつぶる。</p> <p>(Cグループ) 同じグループに 3 組の国際結婚経験者がいて...。  ・夫婦、子どもと親、学校と親の間で、子育ての価値観が違う。解決はできないが、自分のアイデンティティを保ちつつ、他の価値観も受け入れることが生きていく上で大切。</p> <p>(Dグループ)  ・やりたいことを実現するためには、何より健康が大事。</p> <p>(Eグループ)  ・国際結婚によって数えきれない程の困難があったが、自分が好きな事を見失わず、自分の決断を大切にしていきたい。</p> <p>(ファシリテーターより)  現在は 20~30 年前と状況が異なり、ホームシックにかかる学生がいない。インターネットの普及により、毎日電話（ビデオトーク）ができる。“覚悟を決める”ことがすべてではない時代になってきているかもしれない。「こうしたい」と思った時に、行動できる生き方を目指していけたらいいですね。</p> 

## 2. 参加者アンケート

- ・実際にお話を聞くことで、当事者の方がどう感じてきたのか、そして現在どう感じているのかを知ることができた。当事者だけでなく、受け入れる私たちの側にもまだまだ課題があると感じた。
- ・沢山の人の今までの人生の中での出来事を聞いて、皆さんからのアドバイスをこれからの自分の人生に生かしていきたいと思った。
- ・山形に来て、山形で暮らす外国人女性の方のお話を聞くことができ、参考になった。日本と外国では子育て、暮らしなど様々な違いがありつらい経験もあったことがわかったが、それでもなお、日本で暮らす方々の話を聞き、自分の人生について考えることができた。
- ・実際に国外からいらっしゃった方のお話を聞くことによって、自分の国を出るということも選択の1つだなということがわかりました。そして国内外に関わらず毎日楽しく過ごすことができるヒントをお話の中でいただけたり、それぞれの将来の夢を応援しあうことができ、希望も広がりました。ありがとうございました。

## 3. 担当者所感

【西上 紀江子（認定NPO法人IVY理事）】

- ・高校生や大学生が参加してくれたおかげで、場も議論も活性化した。
- ・国際結婚当事者が、出身国の文化や教育観と日本のそれらとの間で揺れ動き、どのように取舍選択したか、あるいは違いに苦しんだ挙げ句、どのように止揚・昇華させたかによって、個々人のあり方の多様性が生み出されていることを改めて感じた。
- ・後半のグループワークの時、グループ編成を参加者に任せるところ、移動せずそのままのメンバーになってしまったところが多かった。予め構成員の多様性に配慮したグループ編成をしておいた方がよかった。
- ・話したい人が多く、それ自体は良かったが、学生さんが司会をするのは難しかった。
- ・当初、「移住者のライフプラン」もしくは「自分のライフプランと移住」「移住者とのライフプラン」など、移住とライフプランの二つがテーマだったと思うが、結果的に「ライフプラン」のみに焦点が当たったように感じられる。企画チームで再度の検証をしてみたい。

【澤 恩嬉（東北文教大学短期大学部）】

- ・前半の協力者によるパネルトークのあと、各グループに分かれ自由に話す時間を設けたことで、全体では言いづらいことなど、深いところまで話をしてもらうことができ良かった。一方、ほかの当事者の話ももう少し聞いてみたかったという声もあり、協力者の方に移動していただくなどの工夫があっても良かったと思う。ただ、その場合、全体の時間をもう少し長く設定する必要がある。
- ・国際結婚がテーマということで、当初若い方の参加は少ないのではと思っていたが、幅広い年齢の方々に参加いただき、話題が広がって良かった。後半では参加者同士のライフプランを発表しあい、これまでの人生経験を踏まえ若い方々の今後の人生プランを後押しするような場面が見られたり、参加者の中に日本人の国際結婚当事者がいて悩みを共有したりなど、参加者個々人が自分のケースを話題にしやすい雰囲気づくりができたのではないかと思う。
- ・最後のまとめを各グループからしていただいたが、まとめの時間が足りなかったことと一人（多くの場合高校生）に任せてしまったことで、全体で共有すべき内容を十分に共有できなかったことは反省すべき点である。グループ全体に見える形での記録の仕方などを工夫していきたい。